

- 1 教科（領域） 国語（読む・書く・話す・聞く）
- 2 単元名・教材名 ことばって、おもしろいな  
「ことばであそぼう」
- 3 単元の目標
- ◎擬声語や擬態語に関する記述を読んで、興味をもつ。
  - ◎身の回りから擬声語や事態後を集めてクイズやゲームを楽しみ、語彙を広げたり言葉のおもしろさに気づいたりする。
  - 友達が出すクイズについて、答えを考え発表することができる。
- 4 単元について

#### （1）児童の実態

男子20名、女子13名、計33名のクラスである。男子が多いこともあり、体を動かすことが好きな上に、時には調子にのり過ぎてにぎやかになることが多い。

学年当初は、まだまだ自分の言いたいことが先で、話し手の話を最後まで聞き終わらないうちに言葉をはさんでしまったり、挙手をして答える場面でも勝手に答えを発してしまったりということがたくさんあった。どの教科、場面においても、学習のルール作りを行っている状態であった。

また、答えがわかっているにもかかわらず挙手や発言ができなかったり、積極的に授業に関わろうとしない子も見られたため、できるだけ授業中に声を発せられるように、グループの話し合いの場を設けるなどしてきた。

このような中で、一年間、相手の話をしっかり最後まで聞くこと、それについての意見を言えることを大きな目標としてきた。人の話を最後まできちんと聞くという面においては、まだまだ課題があるが、意見を言う場面では、学年の後半になって、教師との一問一答ではなく、友達の意見を聞いて、それについての意見や質問、付けたし意見など、友達の意見に関わった発言が多くされるようになり、児童の意見をもとに授業が進んでいくことが多くなってきた。

#### （2）教材について

本教材では、「音やようすをあらわすことば」（オノマトペ）をテーマにした学習が展開される。オノマトペとは、聞こえてくる事物の音や声、状態の様子などを簡潔明瞭に言語化したものである。児童が身の回りから、擬声語や擬態語を集めてクイズやゲームをすることで、語彙を広げたり言葉のおもしろさに気付いたりして、楽しみながら学習できるようにしたい。

クイズは、全員が意見を出せるように、グループで行う。クイズをするときの約束として、クイズを出す人は、相手にわかりやすく伝えるということを頭におき、声の大きさや速さなどに注意をするようにする。また、聞き手は、クイズを聞き、全員が答えを出してから答えを聞くようにし、「話す側」と「聞く側」の立場を意識させながら進めていけるようにしたい。

はじめはグループ内でクイズの出し合いをし、全員が意見を出し、聞き合えるようにする。その後で、グループのみんなで質問をしたり答えを出したりし、短時間での話し合いの場も設けたい。

発表の様子を見ながら声かけをし、楽しさの中でも、聞くこと、話すことの注意点を意識して身につけられるようにしていきたい。

5 指導計画

次・時	学 習 活 動
<p>1 ・ 1, 2</p> <p>3, 4</p>	<p>○教科書を読み、擬声語や擬態語について興味をもち、発表しあうことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の「音やようすをあらわすことば」を読み、音をあらわすことばやようすを表すことばがあることを理解する。</li> <li>・「かえるのうた」を歌い、鳴き声を音で表していることを理解する。</li> <li>・鳴き声を表すことばをさがしてみる。</li> <li>・鳴き声クイズを学級全員でする。 (一人が出題…全員が考えて、わかったら挙手して答える)</li> <li>・「話す側」と「聞く側」で気を付けることを発表する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「話し手」と「聞き手」の役割がきちんとわかるように、意見をまとめて掲示する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳴き声のほかに、音を表すことばをさがす。</li> <li>・「トントントン」と「ドンドンドン」では、ドアをたたくという動作でも、音の大きさやたたく強さ、音を出しているものなどがちがう感じがすることを理解する。</li> <li>・なんの音クイズを学級全員でする。 (教師が出題…全員が考えて、わかったら挙手して答える)</li> <li>・なんの音クイズをグループでする。 (一人が出題…全員の意見を聞いてから正解を言う)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学級全体でクイズをするときと、グループの中でクイズをするときの声の大きさや、ルールの確認をし、掲示する。</p> </div>
<p>2 ・ 1, 2</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>○クイズを出すときの約束を理解し、発表しあうことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぎんぎんぎらぎら夕日がしずむ」や「雪やこんこ」などの、ようすを表すことばを、歌の中からさがす。</li> <li>・ようすを表すことばのクイズを学級全員でする。 (教師が出題…全員が考えて、わかったら挙手して答える)</li> <li>・ようすを表すことばのクイズをグループでする。 (一人が出題…全員の意見を聞いてから正解を言う)</li> </ul> <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「にこにこわらう」や「げらげらわらう」などのように、笑っている様子が違うことばをさがす。</li> <li>・怒っている様子などのことばをさがす。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ことばによって、様子がどのように違うかを考えさせ、話し合いの場をもたせる。</p> </div> <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音やようすを表すことばは、お話や歌やまんがなどにも使われ、作者が考えたおもしろい言い方があることを知る。</li> <li>・教科書のまんがを見て、自分だったらどんな音を付けるか考え、発</li> </ul>

		表する。
		友達が考えたことばを聞き、どんな様子なのかを考え、話し合わせる。
3	1	○グループごとの話し合いにより、意見を出すことができる。 ・問題や答えをグループごとに話し合っひとつに決め、クイズ合戦をする。
		班長が進行をし、みんなの意見をまとめていくように指示をする。
	2	・ことばを使っの学習の振り返りをし、感想を発表する。

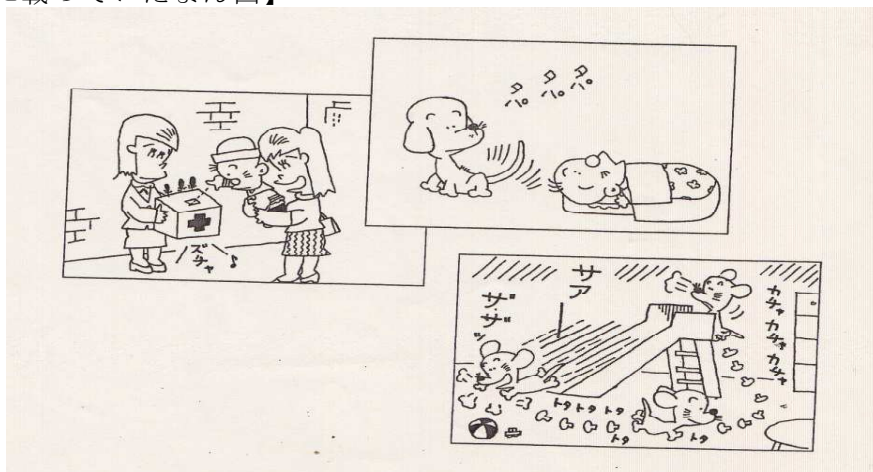
## 6 参考資料

### 【児童が考えたクイズの問題と答え】

何の音？	わたしが考えた正解は！	何の音？	わたしが考えた正解は！
ボウボウ	火が燃える音	パッ	停電した様子
ジュルジュル	汁を飲む音	ビョーン	ジャンプした様子
ゴシゴシ	服を洗う音	グチャ	ガムを踏んだ様子
サクサク	かきごおりを食べる音	ゴクゴク	水を飲む様子
ぐるぐる	タイヤが回る音	ダッダッダッ	走る様子
ヒューヒュー	風が吹いている音	シャー	黒板の字を消す様子
ビョンビョン	カンガルーがはねた音	パタパタ	旗がゆれる様子
ドシドシ	走っている音	ペタペタ	紙をのりにつける様子
バキン	ガラスを割る音	スーイスーイ	金魚が泳ぐ様子
キャリーン	皿を割った音	ぺったんぺったん	ぺんぎんが歩く様子
ドカーン	火山が噴火した音	ころころ	ボールが転がる様子
カリカリ	キューちゃんを食べる音	サッ	着替える様子
パタパタ	ちょうちょが飛ぶ音	トコトコトコ	赤ちゃんが走る様子
ボキボキ	木が折れた音	いらいら	怒っている様子
ガシャン	皿を割った音	もりもり	食べる様子

ドスン	物を落とす音	シクシク	泣いている様子
カキーン	野球で球を打った音	ペロペロ	犬が人をなめる様子
パチパチ	手をたたく音	ポーン	ボールを蹴る様子

【教科書に載っていたまん画】



7 成果と課題

- 普段何気なく使ったり聞いたりしている、音や様子を表す言葉について、改めて理解し、興味を持つことができた。
- 音をあらわすことばと、ようすをあらわすことばで分けて学習したことや、笑う、怒るなどの同じ現象でも、それぞれのことばの使い方によって、印象が変わってくるということがわかった。それにより、たくさんのことばをさがしたり考えたりすることができ、語彙を増やすことができた。
- はじめは教師が出題し、学級全員でクイズの答えを考えていくことで、「話し手」「聞き手」の立場に必要なことやルールを、全体でより確認することができ、活動をスムーズに行うことができた。
- グループ活動を取り入れたことにより、自分の考えを全員が発表し、聞きあうことができた。学級全体の中では挙手や発言が苦手な児童も、全員が発言することができ、効果的だった。また、順番に発言していくことで、次は、○○君の番、というふうに、次の人への期待をもって答えを待つこともできていた。
- グループごとのクイズ合戦では、短時間で回答するということもあり、お互いが協力的に話し合いを進めている様子が見られた。
- いつもは発言の少ない児童も、グループ活動では、考えを出している様子がよく見られたが、必ず答えを待ってもらえるという安心感もあったように思う。同時に必ず答えなければならないという緊張感ももつことができた。この学習を行ったことによって、今後の積極的な発言に向けて、まず自分の考えを言うことができるということの手助けになっていけたように思う。友達の見解を聞いて、それについての質問や意見を言う場面はまだまだ少ないので、これからも、小集団での活動を取り入れ、話し合いの場を増やしていけるようにしていきたい。